



「アート街 六本木」東京ミッドタウンに新たな作品がお目見え
施設内 20 点目のパブリックアート完成
TOKYO MIDTOWN AWARD 受賞対象コンペのグランプリ作品
～東京ミッドタウンが取り組むアートコンペ 10 年の集大成～

東京ミッドタウン(港区赤坂 / 事業者代表 三井不動産株式会社)は、開業時「ハイブリッド・ガーデン」をコンセプトに19点のパブリックアートを配置し、いつでもアートに触れていただける空間づくりを進めてきました。この度、20点目となる作品「絵画からはなれて [磊(らい)]」を新設し、2019年3月29日(金)に除幕式を執り行いました。

本作品は、次世代を担うアーティストやデザイナーの発掘・応援・コラボレーションを目的としたデザインとアートのコンペティション「TOKYO MIDTOWN AWARD(東京ミッドタウン アワード)」の開催10回を記念し、2008～2017年のアートコンペ全受賞者51組(53名)を対象に開催した「The Best of the Best TMA Art Awards」において、応募があった35作家の中からグランプリに輝いた石山和広氏が制作。現在のテクノロジーを作家独自の方法で使用し、写真の領域を超えた、絵画的でありながらも彫刻的でもある作品です。オリジナルの照明を設え、見ごたえ十分の作品が誕生いたしました。

【作品タイトル】絵画からはなれて [磊(らい)]



【作家】 石山和広 / アーティスト (TOKYO MIDTOWN AWARD 2010 アートコンペ受賞者)

【作家プロフィール】

1981年山形県生まれ

2008年東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了

写真を用いて絵の歴史をふまえながら平面作品の制作を行っている。近年の展示に、2019年「秀桜基金留学賞 10年、そして「今」2006～2015」(岡山県立美術館 / 岡山)、2016年「ヴェネチアビエンナーレ国際建築展 2016」(ヴェネチアビエンナーレ日本館 / ヴェネツィア、増田信吾+大坪克亘への協働)、主な受賞に、2018年「The Best of the Best TMA Art Awards」グランプリ受賞、2012年「PX3」Honorable Mention 受賞。

【作品コンセプト】 庭における「石」としての山

日本の国土は7割が山地であり、文化の形成には山の存在が深く関わってきた。山はそもそも雲を留めることで川をつくり人々に水の恩恵をもたらすこと、そして造形的であるその容姿から人々の想像力を掻き立て、人類の敬いの対象となってきた。そのひとつの証として日本の庭園には、その起源から石が欠かせないものとして備わっている。庭における「石」は常に山のメタファーである。この岩むき出しの山は、東京ミッドタウンパブリックアートのコンセプト「ハイブリッド・ガーデン」における「石」であり、同時に人々が変わらず敬意を抱いてきた山である。

【作品概要】 素材 / インクジェット、アルミ サイズ / 320cm × 320cm × 2mm

■掲載時の一般の方のお問い合わせ先■

東京ミッドタウン・コールセンター TEL: 03-3475-3100

東京ミッドタウンホームページ www.tokyo-midtown.com

TOKYO MIDTOWN AWARD ホームページ www.tokyo-midtown.com/jp/award/

参考資料

● TOKYO MIDTOWN AWARD とは

東京ミッドタウンが「“JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)“を創造・結集し、世界に発信し続ける街」をコンセプトに、次世代を担うデザイナーやアーティストの発掘・支援、その先のコラボレーションを目的としてデザインとアートの2部門で開催するコンペティション。



11年間の実施で、延べ応募者数 16,648 組の中から、アートコンペでは、57 組・59 名、デザインコンペでは、92 組・157 名(延べ 95 組・166 名)の受賞者・入選者を輩出。受賞作品だけではなく、アイデアや作品を生み出すことのできる「人」にフォーカスするアワードへの進化を目指します。更に、これまで以上に受賞後支援も拡充し、受賞者・入選者の成長を継続的に支援するとともに、コラボレーションの機会を創出していくことに努めます。



▲ デザインコンペでは、東京ミッドタウンの季節ごとのイベントでのデザイン起用や、受賞作品の商品化サポートを実施。(写真左・中央)
アートコンペでは東京ミッドタウンでの新作発表やワークショップ開催など機会創出の強化を行っています。(写真右)

● 東京ミッドタウンのアートワーク

東京ミッドタウンの開業にあたり、二人のアートディレクター、清水敏男氏とジャン＝ユベール・マルタン氏が世界で活躍するアーティストを選定、アートワークをプロデュースしました。コンセプトは「ハイブリッド・ガーデン」。東京ミッドタウン全体をさまざまな文化が出会う庭園に見立て、都市とアートの新しい関係を提案しています。

このアートプロジェクトでは、計画の当初からアートディレクターとアーティスト、施主、建築家、ランドスケープアーキテクト、インテリアデザイナーなど全ての関係者との緊密なコラボレーションによって計画が進められました。

その結果、アートが建築と一体化し、さらには街や庭園の機能とも調和したアート環境が実現しました。



▲妙夢(安田 侃)



▲意心帰(安田 侃)



▲フラグメント No.5
(フロリアン・クラール)

● 「The Best of the Best TMA Art Awards」について

TOKYO MIDTOWN AWARD(TMA)の10周年を記念し、東京ミッドタウンに新たに設置するパブリックアートを決定することを目的に実施した特別コンペ。2008年～2017年のアートコンペ受賞者全51組(53名)のうち全35作家が本コンペに参加し2018年6月25日(月)に最終審査を行い、グランプリを決定しました。



テーマ	「ハイブリッド・ガーデン」
審査員	児島やよい (キュレーター) 清水敏男 (東京ミッドタウン・アートワークディレクター/学習院女子大学教授) 土屋公雄 (彫刻家/愛知県立芸術大学教授/武蔵野美術大学客員教授) 中山ダイスケ (アーティスト/アートディレクター/東北芸術工科大学学長) 八谷和彦 (メディアアーティスト/東京芸術大学美術学部准教授) 中村康浩 (東京ミッドタウンマネジメント株式会社代表取締役社長)
応募期間	2018年4月1日～5月1日
最終審査日	2018年6月25日
賞金	300万円
制作補助金	3,000万円(最大)
対象	TOKYO MIDTOWN AWARD アートコンペ 2008～2017 受賞者全51組(53名)
コンペ参加者	35作家